

ダメジン

2006(平成18)年7月14日鑑賞(東宝東和試写室)



監督・脚本＝三木聡／出演＝佐藤隆太／緋田康人／温水洋一／市川実日子／篠井英介／ふせえり／笹野高史／岩松了／謙吾／伊東美咲／吉岡秀隆／岡田真澄（アンプラグド配給／2006年日本映画／98分）

……夏休みに向けて、大人のための「脱力系」映画の登場！「ダメジン」とは特別な新語ではなく、ダメな人間のこと。働かずに生きていく方法ばかりを考えている3人組が、ある日「インドへ行けば、一生ブラブラできる」と言われたことからその気になった。さあ、それからの3人組の行動は……？ よくもまあケツタイな人々が、と感心するほどたくさんの変人たちが登場する。顔の絵を描いた紙袋で顔を隠した変人たちによる銀行強盗は、犯罪とは思えず、一種の清涼剤……？ ビックリするのは、今をときめく伊東美咲のチョイ役での登場だが、さて、それはなぜ……？

なぜ今……？ そして三木聡監督とは……？

この『ダメジン』は三木聡の初監督作品で、2002年夏につくられていた映画。それが、なぜ2006年夏の今頃公開に……？ その事情は、パンフレットの三木聡監督インタビューの中で赤裸々に(?)語られているので、これは必読。ひと言で言えば、デビュー作をせっかक्तくったのに、取り残されていたということ。もっとはっきり言えば、お蔵入り間近になっていたというわけだ。

ところがその後の、『亀は意外と速く泳ぐ』(05年)、『イン・ザ・プール』(05年)がヒットし、三木聡監督の名前が売れ、「脱力系」という新語も定着する中、彼のデビュー作が見直され、2005年の秋に再び製作がスタートし、今年の夏の公開に至ったというわけだ。

ちなみに、元々のタイトルは『ほぼ乞食』というもの。それよりは『ダメジ

ン』の方がよほど洗練されている……？

ダメジン「3人組」の面々は……？

ダメジン3人組は、リョウスケ（佐藤隆太）、ヒラジ（緋田康人）、カホル（温水洋一）の3人で、「働かずに生きていく方法」を考えるという目標（？）は一致しているものの、そのキャラはさまざま。1番気の弱い中年男で、いつも失敗ばかりしているのがカホルで、1番まともそうな（？）中年男がヒラジ。そして、この2人と常に行動をともにしているのがリョウスケだが、リョウスケは1番若いだけに行動力があるうえ、宇宙ロケットで宇宙に行く夢を見ることができるといふ能力（？）も……。

そんな3人はある日、猫じじい（笹野高史）から「ダラダラしているならインドへ行け。インドなら一生ブラブラしていても何とかなる」という情報を与えられたため、突然インドの魅力にとりつかれることに……。この手のダメジンは、いったん思い込んだら真っ直ぐその道を進むもの……。旅行資金100万円を貯めるために彼らが最初にしたことは、郵便ポストを切断しその中にある手紙から切手をはがして売ることだった。しかし、それでは意外とお金にならないことがわかった彼らは、次にはどんな行動を……？

チエミのラブストーリーの展開は……？

この映画の登場人物はすこぶる多い。また、本物の美男美女もちょっとだけ登場するので、お見逃ししないように。美男はリョウスケの友人の花沢を演ずる吉岡秀隆で、最初のストーリー形成に大きな役割を。そして美女は今をときめく伊東美咲で、死亡したタンクの役。こんな風に伊東美咲がチョイ役で登場するのは、この映画が2002年につくられたため……。この2人以外の登場人物は、いずれもケツタイな奴で、脱力系のキャラばかり……？

刑務所から出てきたばかりのヤクザのササキ（篠井英介）とばったり出会うのが、「サマー靴屋」で働いているタンクの親友のチエミ（市川実日子）。彼女はアイドル系のいい女だが、トルエンを吸っているためちょっと頭がおかしくなっているようで、かなりヤバイ感じ。彼女は3年ぶりに戻ってきたササキと、再度仲

良く一緒に暮し始めたが、さてどうなることやら……？ こんなチエミをめぐるラブストーリー（？）も、こんな脱力系映画だから、ちょっと意外な方向に展開するので、それにもご注目！

サンドル製造のまち工場の行く末は……？

この映画の舞台は、京浜工業地帯の川崎あたり……？ ここが選ばれたのは、神奈川県生まれの三木聡監督の地元だから……？ 中小零細企業の頑張りで、日本経済が発展したことは『キューポラのある街』（62年）を観ても明らか（？）だが、この映画には倒産寸前のいかにも暗い雰囲気のスandal工場が登場する。その社長が沼さん（岩松了）で、社員が村下（山崎一）。そして経理担当の女性社員がカズエ（ふせえり）とタイアン（片桐はいり）。この4人の変人ぶり・脱力ぶりも相当なものだが、とりわけ沼さんのスケベぶりと、ダメジン3人組のカホルに対するカズエのいじめぶりが、特筆モノ……？

恋に破れて痛手を負っている沼さん（？）にかかってきたのは、さらに追い打ちをかけるような銀行が倒産したとの電話。これによって、沼さんは思わず小便をもらしてしまっただが、かえってそんな不幸が社員を一致団結させることに。そんな中、果たして銀行に見放されたまち工場の再生はなるのだろうか……？

ゲシル先輩の悲劇は……？

いかにも体育会系の雰囲気を漂わせる大男のゲシル先輩（謙吾）は「伝説の男」を目指し、今日もバイクで走っていたが、ダメジン3人組ではどんな伝説を生み出せばいいのか、といういい知恵は出せずじまい……。そんな中、地面に落ちたたこ焼きにタイヤをとられたために乗っていたバイクが転倒したゲシル先輩は大ケガを負い、人工肺を持ち歩かなければならないことに……。しかし驚くべきことに、本人はいたって元気。

今までどおり3人組との交流（？）を楽しんでいたが、最後のクライマックスである銀行強盗の後、警察官の追跡中、遂に人工肺にピストルの弾が当たったため、無念の最後を……。

脱力系キャラ満載の中、1人このゲシル先輩だけは悲劇の「伝説の男」になっ

てしまうことに……。

クライマックスは銀行強盗だが……

インドへ行くための費用が全然貯まらないダメジン3人組と、まち工場倒産の危機に陥った沼さんその他大勢のダメジンたちの思惑は、銀行強盗で一致……？現金輸送車が到着した瞬間を期して、顔の絵を描いた紙袋を被ったダメジンたち集団は、一気に銀行の中へ。それぞれ札束を握って逃げ出したが、彼らは警察官の追及を無事逃れることができるのだろうか……？

もっともこんな脱力系映画だから、強盗犯人もダメジンなら、警察官もダメジンばかり……？

さて、インド行きは……？

迫力ある、楽しい(?)銀行強盗の実行が無事終わり、今日は橋の上にダメジン3人組とチエミ、カズエらが集まった。チエミが手に持つのは、ゲシル先輩の灰。ゲシル先輩の思い出を語りつつ、川の中にそれをまき散らすチエミだったが、きっとゲシル先輩も喜んでくれていることだろう……。またここで、ヒラジとカホルからは「インドまで行かなくても、ここがインドみたいなものだ」という悟りの境地(?)に達したような発言も出たが、リョウスケは……？ さて、ダメジン3人組のインド行きはどうなるのだろうか……？

2006(平成18)年7月14日記